

中央アルプス木曾駒ヶ岳におけるライチョウ確認調査について

1. 概要

平成 30 年 7 月に約 50 年ぶりにメス 1 羽が見つかり、ライチョウ保護増殖検討会にて乗鞍岳から有精卵の移殖を実施することになった中央アルプスのライチョウについて、生存確認調査を行ったもの。第 1 回目の 2 日間の調査では、生体及び痕跡も見つからなかったが、第 2 回目の調査にて足跡を発見し、その後ねぐら跡及び糞、そして現在隠れている岩陰まで特定し、生存を確認した。急斜面であったことと個体を刺激することを避けて目視するまで追跡しなかった。

2. 調査内容

日程：第 1 回調査：平成 31 年 4 月 28 日（日）10:30-18:30
29 日（月）6:30-10:30

第 2 回調査：令和元年 5 月 8 日（水）7:30-12:00

調査地：中岳から駒ヶ岳周辺（図 1）

方 法：踏査により生体や足跡及び糞などの痕跡を探す

調査員：中村浩志信州大名誉教授、環境省職員 3 名 計 4 名



図 1 木曾駒ヶ岳における H30 ライチョウ確認場所と本調査範囲（○）（国土地理院地図）

3. 調査結果

第1回調査では、生体及び痕跡は見つからなかった。第2回調査にて午前9時過ぎに駒ヶ岳周辺で前日の足跡を発見し、周辺でガンコウランをついばんだ跡やねぐら跡及びねぐらに残された糞を確認した。8日はほとんど移動した痕跡はなく、隠れている岩陰も特定できたが、急斜面であり、個体をむやみに刺激することを避け目視での確認は避けた。まだ雪が多く残るため営巣活動には入っておらず、最低限の採餌ができる安全な場所を選んでいられると思われ、非常に慎重な性格の個体と考えられた。なお、人が近づくことによる個体への影響を考慮し、正確な発見場所の発表は控える。

4. 目撃情報の収集について

一般登山者からの目撃情報を収集するために中央アルプス観光株式会社の協力を得てロープウェイ内でのアナウンス及び千畳敷ホテルでの呼びかけを行っている。

5. 普及啓発について

この時期のライチョウは営巣活動に入る非常に繊細な時期であり、ストレスがかかると営巣活動を止める可能性がある。登山者らがむやみに探し回ることがないように周知し、もしライチョウに出会った場合でも遠くからそっと見守ることを徹底してもらうよう関係機関と協力して理解を求めていく。個体に影響を与えることがないように、今後の現地取材に関しては日時を定めたうえで専門家の指示のもと実施する予定である。

当地域ではライチョウ保護増殖事業を機に、ルールやマナーの徹底と生態系への理解を深めてもらうよう、自治体やロープウェイ及び山小屋等の関係機関と協力し引き続き普及啓発活動を行っていく。

6. その他

回収された糞はアイメリア原虫の有無についての解析を実施する予定である。

7. 写真（第2回調査（5/8（水）））



千畳敷駅からの登りと中岳周辺の調査風景



中岳南西斜面

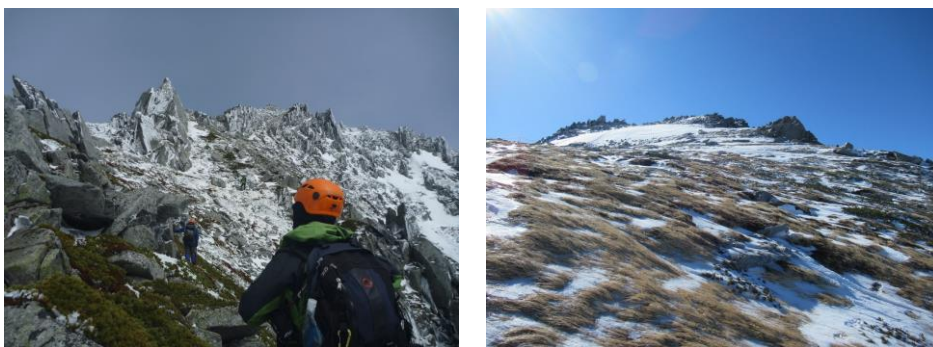
中岳山頂から駒ヶ岳と奥は御嶽山

駒ヶ岳周辺から御嶽山（左）及び乗鞍岳（右）



駒ヶ岳の周辺の全景

駒ヶ岳南東斜面（ハイマツがより出ている）



駒ヶ岳北東側斜面

中岳北西斜面



駒ヶ岳南西斜面



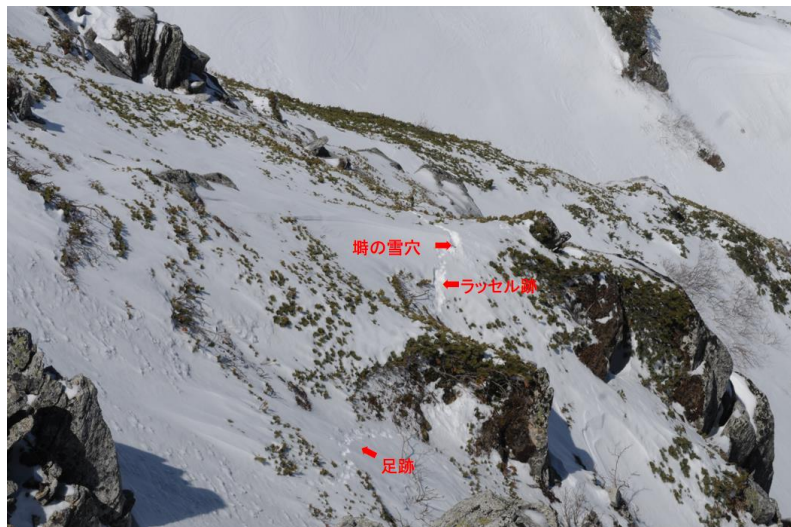
駒ヶ岳西斜面と御嶽山



駒ヶ岳南東斜面



発見した足跡



雪上に残された足跡と壱場所



ライチョウの足跡と5月7日から8日の夜の壱場所となった雪穴



壱となった雪穴に残されたライチョウの糞



調査風景



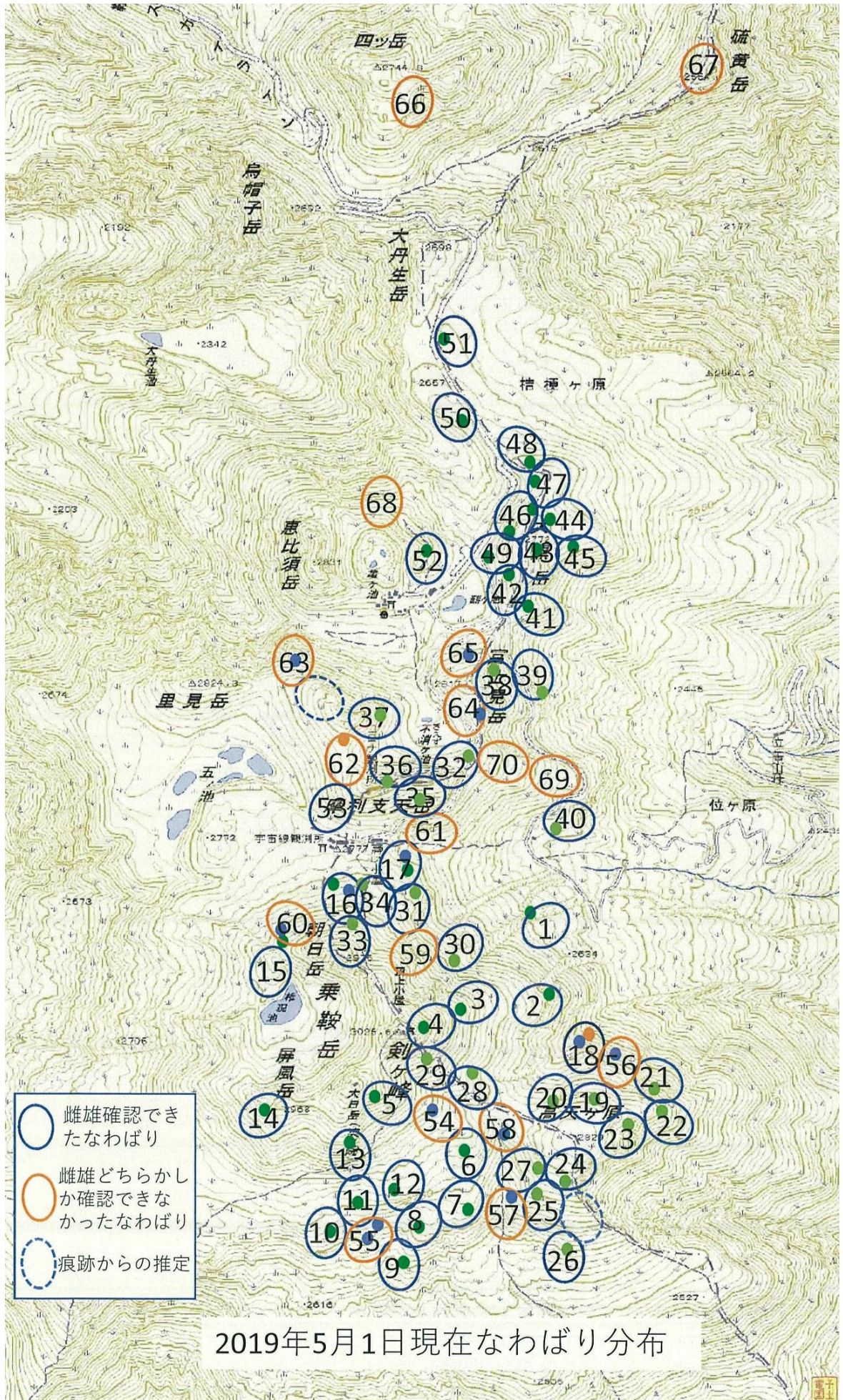
回収した糞



ガンコウランをついばんだ跡



足跡



参考図：令和元年度の乗鞍岳におけるなわばり分布状況調査（5月1日現在）